



2018年9月24日「奥浅草だより」第13号

祝「山谷酒場」オープン

山谷に魅せられて酒場開業 このたび、東京山の手で喫茶店主であった41歳の男子が、山谷の地で酒場を始めました。チェーン店などが無い素朴な土地柄が魅力だそうです。住まいも山谷に移したとか。研究を重ねた混合酒を「山谷酒」と名付け、店のシンボルにしています。アルコールは各種そろえ、さらに数十種のおつまみを並べています。店の装飾は山谷色。色とりどりのドドメ色調だそうです。(台東区日本堤 1-10-6)

吉原と山谷の接点 9月17日にオープンし、16-23時開店。10月からは8-10時のモーニング喫茶も。定休は月曜。客は初老の男性グループや2人連れなど。男性ばかりかと思いきや、楚々とした女性が独り。彼女はボトルキープをする常連。訊けば、「私は吉原で働いています。」と毅然と名乗るのは「しいな」さん。この店の大通りの向こうは吉原のソープ街です。

シャッター通りは商業遺産 この店は、「いろは通り商店街」の土手通りの入り口近くの元パン屋です。台東区の中でも屈指のこの商店街。1976年にピカピカの300メートルのアーケードをつくったときは、店には品物があふれ、日雇い労働者を背景に街全体に活気がみなぎっていました。ドヤ街が静かになるにつれてシャッター通りと化し、いまやお金のかかる耐震工事ができないため、2018年3月にアーケードを撤去。商店街は開いている店がぼつぼつという状態。ただし「シャッター通り」とは、山谷だけでなく、台東区だけでなく、日本だけでなく、世界的な現象だそうです。商店街にこだわらず、この街全体をリノベ(再生)したいというのがひとびとの願いです。

この「奥浅草だより」は『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後、話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧になれます。 <http://www.sanpx.co.jp>